

ダフニスとクロエー

この作品は、古代ローマ期にロンゴスによって書かれたと伝えられています。ギリシアローマの古典としては、ほとんど唯一といってよい牧歌的で清純な恋物語です。舞台は、エーゲ海東部のレスボス島。主人公の美少年ダフニスも美少女クロエーも、共に身印の品を添えて野に捨てられていた孤児でした。二人はそれぞれ山羊飼いによって育てられます。二人の幼い恋心が、様々な冒険を経て熱い愛情へと高められ、最後はそれぞれが裕福な親の子であったことが判明してめでたく結ばれるまでの物語です。その過程で、登場人物の夢や話の中に、愛神、牧羊神、妖精などが実際に登場して、物語の進行に一役買うなど、古典ギリシアの神話的世界の息吹そのままに物語は展開してゆきます。

西欧では、冒険恋愛小説の原型となった作品として知られていましたが、我が国では、これを種本にして、三島由紀夫がイニシエーション（通過儀礼）ロマンの傑作『潮騒』を書いたことから、広く知られるようになりました。

若いときの感性でしか味わい取れない読書の喜びがあります。学生時代にぜひ一度読んでみてください。（教育課程 加藤 明）

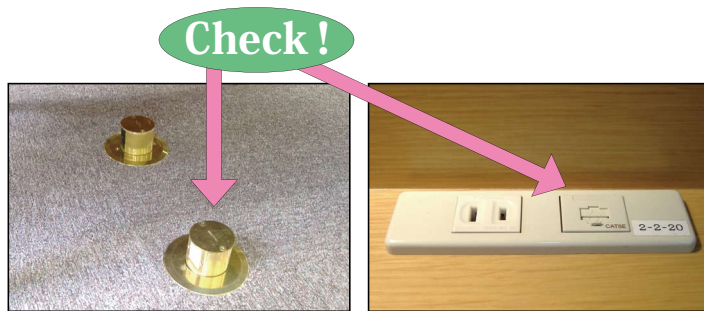


◎ダフニスとクロエー（ロンゴス、松平千秋）

Information

ノートパソコンでインターネットにつなごう ～図書館のLANケーブルを貸出します～

図書館の1階、2階閲覧席の周囲に以下のような情報コンセントが見つかると思います。これらのコンセントはノートパソコンを持って来てインターネットにつなぐことができます。この情報コンセントにつなぐケーブルを、1階図書館カウンターで貸出しますので、遠慮なく申し出て下さい。



2階閲覧席下

2階個人ブース

図書館の蔵書検索ページに「ブックリスト」ができました

「今月のおすすめ図書」や「授業ガイド」に掲載された図書など、いろいろな本のリストを載せています。これからも増やしていく予定です。クリックしてみてください。

「図書館ホームページ」→「蔵書検索」からアクセスしてください。



LIVRE

リーヴル

学校法人藤村学園 東京女子体育大学・短期大学附属図書館報
2011.4 No.13

春 出 会 い

新しい環境に入り、新しい人々と出会う。
希望に満ちた季節、それが春です。
図書館ではたくさんの本が、あなたとの出会いを待っています。



DVD 入荷情報

「中学校・高等学校のダンス授業に向けて」

平成 24 年度より、ダンス授業が中学校で男女必修となりますが、その準備に役立つ DVD 教材が、上記タイトルで本学のダンス研究室よりリリースされました。内容は以下の3項目で、いずれもすぐ授業実践につなげられるものとなっています。教育実習や卒業後の授業にぜひ活用してください。（ダンス 奥野知加）

- ◎ Disk 1 「創作ダンス」～創作ダンスの指導法
- ◎ Disk 2 「フォークダンス」～よさこいソーラン 体育祭に活用できるダンス展開
- ◎ Disk 3 「現代的なリズムのダンス」～「ヒップホップ」「ロック」のリズムに乗って全身で踊る



春 新しい季節 本に出会おう

楽しい大学生ストーリー

大学で春と言われると卒業と入学が思い浮かびます。そんな大学生を主人公とした本をいくつかご紹介させていただきます。新入生、2年生にはサークル活動を中心に描いた『暴走ボーソー大学』『キケン』『鴨川ホルモー』の3冊を。3年生、4年生には就活を描いた『ワタクシハ』の1冊を。単純に面白いと感じた本ですが、中には参考になりそうなアイデアや意見もあり、気分転換もできる楽しい本としてお勧めします。(体力トレーニング 烏賀陽信央)



◎暴走ボーソー大学 (山之口洋)



◎キケン (有川 浩)



◎ワタクシハ (羽田圭介)

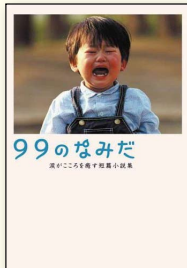


◎鴨川ホルモー (万城目学)

感動の涙がこころを癒します

みなさんは最近、感動して涙を流したことがありますか？ 私は、この本を電車で読んでいましたが、周囲を気にせず涙をポロポロ流しながら読みました。12篇の短編小説集ですが、どれも感動する作品ばかりです。本が嫌いという方でも、短いので読みやすいと思います。感動したい、心が温まる本を読みたいと思っている方に、ぜひ手にとって欲しい一冊です。

(児教2年 宮脇菜里)



◎99のなみだ—涙がこころを癒す短編小説集 (リンダブックス編集部)

死を想い、生を想う

著者は、医師であり私の山形大学の恩師である。『学校保健』の講義の冒頭は、決まって歴史上の人物の死因の問いかけて、その唐突な問いに戸惑いながらも引き込まれていった記憶がある。本書では、平清盛、源頼朝、織田信長、豊田秀吉、徳川家康、武田信玄、加藤清正、伊達正宗などの戦国武将26人についての病歴、寿命、死因に加え、歴史的事件にかかわるエピソード(暗殺の風評など)の真偽などについても論評されている。「死因」という縦糸とエピソードという横糸で紡いだ一大短編歴史物語といってもいいユニークな著作である。

(学校保健 戸田芳雄)



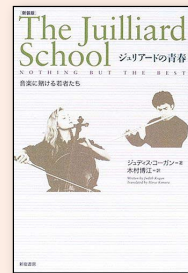
◎カルテ拝見 武将の死因 (杉浦守邦)

スペシャリストを目指して

「1番でなければ意味がない…クラシック音楽の世界で一流をめざす若者たちがジュリアード音楽院で身をもって体験するきびしい修行、競争、そして至福の瞬間…(帯書きより)」。

「2位じゃだめなんですか？」…ある政治家が言ってました。スペシャリストを目指しても、その夢を叶えることの出来る人は一部の人間です。ここでは、音楽家を目指して生き抜いていく若者たちの生き生きとした姿が描かれています。体育・スポーツでも同じことが言えるでしょう。自分自身に重ね合わせて読んでみると、共感する場面が多く見えてくるかと思います。

(音楽 柳田憲一)



◎The Juilliard School ジュリアードの青春 音楽に賭ける若者たち (ジュディス・コーガン、木村博江)

新館長からの挨拶

私は近代日本女子体育史を研究しているので、常に史料を探しています。史料は私蔵されていたり、図書館や図書館等で収集整理されており、多くの図書館のお世話になりました。新史料を発掘し、新しい史実を明らかにできた時の喜びは格別です。

国立国会図書館に行く度に、出納台の上に書かれている、新約聖書に由来するという「真理がわれらを自由にする」という言葉を読みます。本学図書館も真理を追究しようとしている学生・教職員をはじめ多くの方々が自由になるために役立ちたいと思います。

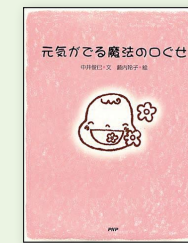
掛水 通子

平成23年4月から図書館長

言葉の力が自分を変える

言葉にはプラスのパワーもマイナスのパワーもあると思います。人生を前向きに変えたいなら、プラスの言葉をたくさん使えばいいとこの本を読んで感じました。この本には傷ついたときや、もっと元気を出したいときに心を癒し、一歩踏み出す勇気をくれる言葉がたくさんありました。たとえありふれた言葉でも、たった一言でその人の潜在意識や気持ち、考え方を変えたいと思います。壁にぶつかったとき、くじけそうになったとき、プラスの言葉で前向きに捉えてみてはいかがでしょうか。

(学部4年 衆原由枝)



◎元気がでる魔法の口ぐせ (中井俊己、藪内玲子)